



東京YMCA

2010 8/9月号

発行所 東京キリスト教青年会 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

7月19日～25日に第17回世界YMCA大会が開催され、85カ国のYMCAから134人が香港に集いました。東京YMCAから参加された山本和常議員の報告を掲載します。

本会常議員 山本和



YMCAの世界大会とは一体どんなものだろうかという想いで参加したが、思いのほか収穫があった。香港はもともYMCA活動が盛んなところで、会場となったKwai Sha Youth Village は中心部から離れた新開地の海沿いに位置する、御殿場の東山荘のようなところである。YMCAが積極的に参画することによって、グローバル化が進む現在の社会にあること、世界的な流れの中にいること、具体的な提案につながっている。

「収穫」と感じたのは、1000人を超す参加者の大半が、熱心に全体会議やグループ討議に参加し、多くのユースたちも加わって、今の時代に相応しい世界のYMCA活動(movement)を新たに作り出したい、各国が協力して新たな活動を盛り上げたい」という熱気とエネルギーに満ちていたからだろう。

「いま、地球市民として生きるために」とした大会のテーマ自体は、それほど目新しいものではない。そこで語られている「国連のミレニアム開発目標」達成への参画、貧困削減やアフリカ自立への支援、環境問題への身近な取り組み、男女共同参画社会の形成、教育機会を全ての人に付与、宗教間対話の促進等々はいずれもすでに国連を始めとする国際社会、各国政府あるいはNPO、教育機関など

環境問題に取り組むのか、YMCAこそ、その担い手になろうという一貫した主張が感じられた。このように、今や当然のことと認識されてきた世界的な課題に、YMCAが積極的に参画することによって、その今日的な使命を達成したいという考え方は、具体的提案につながっている。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

=第17回世界YMCA大会開かれる=

『いま、地球市民として生きるために』



写真提供: 笈川光郎氏

entusted are used for the purpose intended] 本大会のこのほかの議題としては、YMCAのアイデンティティをどう外に伝えていくかが一つの中心的な話題となった。

大会会期中には毎朝きちと守られ、キリスト教主義は大切に扱われていたが、その場合においても、エキメニカルかつインクルーシブなキリスト教主義ということが言葉の端々に強調されたことは事実である。

アジア・フォーラム2010

YMCAの未来を一緒に考えましょう。

日程: 10月30日(土) ~ 31日(日)

場所: 山中湖センター

お問合せ 会員部: 03-3615-5568

(mission clarity) もファイナンシャル・ルールの必要性と組織としての信頼性を高めることが大切であることが強調された。

私はこの一連の主張を聞いて、大変頼もしく感じると同時に、やや力が入りすぎていることも感じたので、ユニセフ本部勤務時代に類似の論議をした経験

「It is essentially important to ensure that the resources...」
「あなたは暴力によらずに平和を築くべきだ...」
「平和が優先される時代に思う」
「すべての人を一つにしていただく」

赤三角

インターナショナルスクールT.Y.I.S.に通う児童の保護者から日本でも暮らす上で何が不便かを聞く機会があった。インド人のその方は流暢な日本語を話す「電化製品の説明書に漢字が多く理解できず、いまだに使い方が分からない」という。また子どもが小さい頃、幼稚園から「お便り」が読めなかったため、十分な準備をしてあげられず寂しい思いをさせたことだった。一歩外へ出ても交通標識や注意書きが分からず、危険な思いもされたという。▽政府は留学生30万人計画を推進し、入国手続きも簡素化し、外国人を積極的に受け入れようとしている。しかしニューカマーは脚光を浴びているが、既に日本にいる200万人を超えるオールドカマーが暮らさず、たかという疑問符がつく。制度改革や法律改正も重要だが、これは私たち日本人の意識と他者への関わり方の問題ではないだろうか。▽「日本人」と「外国人」という二者択一でものを考えるのではなく、固有の言語と文化を持つその人の出身国を尊重し、自分と同じ地域に住む住人として受け入れられるか、困っていることがあったら躊躇せず手を差し伸べられるかということがある。これが本当の意味での「多文化共生」であり、江東区と協働して在日外国人支援キットを作成した東京YMCAのこれからの大きなテーマとなることは間違いない。(国際協力部 菅谷 淳)

